

私たちは文化財をとおして  
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会  
設立 50 周年を迎えます

季刊 みる・きく・ふれる 文化財

# おうみ文化財通信

# 45

vol.

Information of Cultural Heritage in OHMI

2020 Autumn

## 【調査速報】

密集する方形周溝墓を発見!! -野洲市小比江遺跡-

## 【資料紹介】

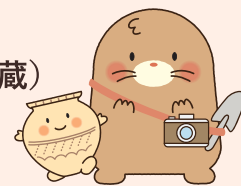
重要文化財 木造阿弥陀如来立像 鎌倉時代 (草津市観音寺所蔵)

## 【展示案内】

秋季特別展「信長と光秀の時代-戦国近江から天下統一へ-」

## 【展示案内】

「平成の発掘成果から滋賀の歴史を垣間見る-古墳時代~室町時代編-」



## 【調査速報】

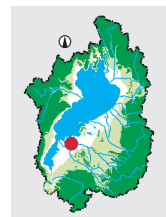
みっしゅう

ほうけいしゅうこうぼ

# 密集する方形周溝墓を発見!!

やすしこびえいせき

野洲市 小比江遺跡-近江八幡守山線補助道路整備工事に伴う発掘調査-



調査地全景

(写真: 滋賀県 提供)

小比江遺跡は野洲市北部に位置し、野洲川右岸の扇状地と三角州との中間地帯に形成された自然堤防帯上に立地しています。当遺跡は、かつては中世の屋敷地として認識されていましたが、長らくその実態は不明でした。しかし、平成2年(1990年)度に当協会が実施した発掘調査において弥生時代中期から後期にかけての方形周溝墓や木棺墓、古墳時代初めの溝、飛鳥時代の溝、平安時代以降の水田跡や溝などが見付き、遺跡の具体的な様相が明らかになりました。

特に20基以上が見つかった方形周溝墓は調査区全域を埋め尽くすように密集しており、この土地が弥生時代に墓域として利用されていたことがわかりました。

当協会では、小比江遺跡の発掘調査を令和元年(2019年)度に再び実施しました。今回の調査地は、平成2年度調査地点の北側隣接地にあたります。発掘調査の結果、弥生時代後期の方形周溝墓が9基見付き、墓域がさらに広範囲に広がっていたことが明らかになりました。

【詳しくは次のページ】

# 野洲市 小比江遺跡 一周溝から弥生土器が出土

## ◆密集する方形周溝墓群

方形周溝墓は、平面形が方形の範囲を溝で囲んだ弥生時代のお墓です。溝の内側には土を盛り（墳丘）、遺体を納める埋葬施設が造られます。

今回の発掘調査では、9基の方形周溝墓が見つかりました。これらは前回の調査で見つかったものと同じく密集しており、一部が重複したものもありました。規模は大きなもので一辺8~10m、小さなものは一辺4m程度です。平面形は基本的に方形ですが、なかには円形に近いものも存在します。墳丘は盛土の一部が残存するものもありました。ただ、いずれも後世に開発によって上部が削平されていたため、埋葬施設は見つかりませんでした。



見つかった方形周溝墓群

## ◆周溝から弥生土器が出土

方形周溝墓の周溝からは弥生土器が出土しました。器種は壺などとみられます。

方形周溝墓の周溝からは、しばしば完全な形の土器が出土します。これらは供献土器きょうけんどきと呼ばれ、葬送儀礼の際などに墳丘上や周溝内に置かれたものと考えられています。この遺跡では周溝内で出土した弥生土器の傾向から、周溝のコーナー付近で見つかる例が多いことが過去の調査で指摘されています。

今回出土した土器には完全な形で残っていたものはありませんでした。ただ、コーナー付近で見つかったものの中には、死者のために供えられた土器が含まれているかもしれません。このような土器の中には何が入っていたのでしょうか？



周溝の土器出土状況

## ◆調査成果のまとめ

調査成果から、方形周溝墓を主体とする弥生時代の墓域が、これまでの確認されていた範囲よりも北側へ広がることが明らかになりました。この遺跡の周辺では弥生時代の遺跡が数多くみつかっています。今回の調査成果が地域の中でどのように位置づけられるのか、今後も検討を重ねていく必要があります。ご期待ください。



各種最新の情報はこちら➡ 協会 HP



周溝から出土した土器

(写真：滋賀県 提供)

# 重要文化財 木造阿弥陀如来立像 鎌倉時代 (草津市 観音寺所蔵)



重要文化財 木造阿弥陀如来立像 (草津市観音寺所蔵)

両手で来迎印を結び、身を乗り出して蓮華の上に立つ、この仏像は草津市芦浦・観音寺に伝わる木造阿弥陀如来立像です。切れ長の眼によって作り出された厳しい表情と、柔らかな頬によって表された端正な顔つきが魅力的です。

平安時代中期ごろから天台宗内で発生した浄土信仰は、平安時代後期から鎌倉時代にかけて爆発的な流行を見せ、それに伴って多くの阿弥陀如来像が作られます。本像もそうした例のひとつで、鎌倉時代らしい端正で理知的な表現となっていますが、その最大の特徴は、足の裏に仏のしるしである仏足文が描かれ、足ほぞ(台座に差す部分)が金属製の棒でつくられている点です。仏足文は仏の身体的な特徴である三十二相八十種好のひとつで、中央に輪形の相(千輻輪)が描かれており、人々の迷いを静める意味が込められています。

本像は、栗東歴史民俗博物館で開催する地域連携企画展「栗太郡の神・仏 祈りのかがやき」に出展されます。会場では、本像と同じ鎌倉時代に作られた光背の繊細な輝きにも注目していただければ幸いです。



展覧会名：栗東歴史民俗博物館開館30周年記念

滋賀県立琵琶湖文化館・栗東歴史民俗博物館地域連携企画展

## 「栗太郡の神・仏 祈りのかがやき」

会 期：令和2年9月19日(土)～11月15日(日)

休 館 日：月曜日(9月21日をのぞく)、9月23日(水)、11月4日(水)

会 場：栗東歴史民俗博物館(栗東市小野 223-8 TEL. 077-554-2733)

主 催：滋賀県立琵琶湖文化館 栗東歴史民俗博物館

滋賀県立琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先  
TEL. 077-522-8179 FAX. 077-522-9634  
E-mail: biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp  
URL: <http://www.biwakobunkakan.jp/>



文化館 HP

# 「信長と光秀の時代 — 戦国近江から天下統一へ —」

春季開催をお知らせしていた明智光秀の生きた時代を紹介する特別展は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催できなくなりましたが、所蔵者の皆様のご協力で、ほぼ同じ内容で秋季に開催できる運びとなりました。重要文化財南蛮屏風(大阪城天守閣蔵)を除き、予定どおりの資料を展示します(展示図録は、春季特別展として発行したものととなります)。

信長や光秀が見た近江の風物と人々、南蛮の文物も取り入れた華やかな文化。そこで信長と光秀が、天下統一に向かってどのような道を選んだのかを、残された資料から紹介します。

開催期間：令和2年10月10日(土)～11月23日(月・祝)

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休 館 日：月曜日(ただし、11月23日(月・祝)は開館)

入 館 料：大人 900 (690) 円・高大生 640 (470) 円・小中生 420 (310) 円・

県内高齢者 460 (350) 円

※( )は20人以上の団体料金。「信長の館」との共通券もあります。

※やむを得ず会期が変更になる場合もございます。最新の情報は館のホームページで  
ご確認ください。また、ご来館の際はマスクの着用にご協力をお願いいたします。



左上：南蛮兜(大阪城天守閣蔵)

右上：滋賀県指定文化財 明智光秀禁制(多賀町多賀大社蔵)

下：重要文化財 近江名所図 左隻(滋賀県立近代美術館蔵)

滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678  
TEL. 0748-46-2424 FAX. 0748-46-6140  
URL: <http://www.azuchi-museum.or.jp/>



博物館 HP

# 「平成の発掘成果から滋賀の歴史を垣間見る —古墳時代～室町時代編—」

元号は平成から令和に変わりました。過ぎ去った平成の30年間では国や県などが行う開発事業に伴って発掘調査が実施され、多くの遺跡や遺物がみついています。こうした遺跡や遺物によって、滋賀県の歴史を考える上で新たな知見が積み重ねられました。

昨年度は縄文時代～弥生時代に焦点をあて、その

成果を展示しました。今回はその後編として古墳時代～室町時代に焦点をあて、遺跡の調査からわかった成果を遺物や写真などを展示して紹介します。また、平成の初め頃の調査でわかってきた遺跡に残る地震の痕跡についても、写真などを展示いたします。ここでは特に注目される2つのテーマについてご紹介します。

## 木製祭祀具と水辺の祭祀

高島市上御殿遺跡<sup>たかしまし かみごてん いせき</sup>では、昔の川で行われた木製祭祀具<sup>もくせいさい</sup>を用いた水辺の祭祀跡が見つかっています。この遺跡では、古墳時代から平安時代にかけての約600年間、同じ川で水辺の祭祀が行われていたことが明らかになりました。古墳時代には木製の刀形代<sup>かたなかたしろ</sup>を使って

悪霊などを追い払い、律令国家が成立した奈良時代以降には木製の人形代<sup>もくせい ひとかたしろ</sup>に自らの穢れを移す、現在の<sup>おほらえ</sup>大祓の原型へと変化しています。このような長期間に及ぶ水辺の祭祀の変遷がよくわかる例は非常に珍しく貴重な調査成果です。



古墳時代の木製祭祀具



古代の木製祭祀具・墨書土器

## 日本最古の貨幣

和銅元年(708年)に発行された和同開珎<sup>わ どうかいちん</sup>に先立つ貨幣<sup>む もんざんせん</sup>で、銀製で銭面に文字がないことから無文銀銭と呼ばれています。奈良やその周辺から出土し、滋賀県でも大津市崇福寺塔跡<sup>おおつ し ずうふくじ とうあと</sup>、同市唐橋遺跡<sup>からはし</sup>、守山市赤野井湾遺跡<sup>もりやまし あかの いわん</sup>、甲良町尼子西遺跡<sup>こうら ちょうあまご にし</sup>、栗東市狐塚遺跡<sup>りつとう しまつねつか</sup>、同市靈仙寺遺跡<sup>りょうせんじ</sup>といった複数の遺跡から出土しています。今回の展示では、赤野井湾遺跡と尼子西遺跡から出土した無文銀銭を展示いたします。



無文銀銭(甲良町尼子西遺跡)

展示期間 令和2年9月18日(金)～令和3年7月9日(金)  
午前9時～午後5時(年末・年始・土日祝 休館)  
展示場所 滋賀県埋蔵文化財センター ロビー

滋賀県埋蔵文化財センター  
〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2  
(「びわこ文化公園」内)  
TEL. 077-548-9681 FAX. 077-548-9682

(写真: 滋賀県 提供)

◆令和2年10月1日刊行/編集・発行: 公益財団法人滋賀県文化財保護協会/〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2/電話: 077-548-9780/FAX: 077-543-1525  
イラスト: 早田まな(しじみやん・まめのぶくろ)・理恵湖文化館(あきつ君)・岩崎里水(50周年記念広報キャラクター)